

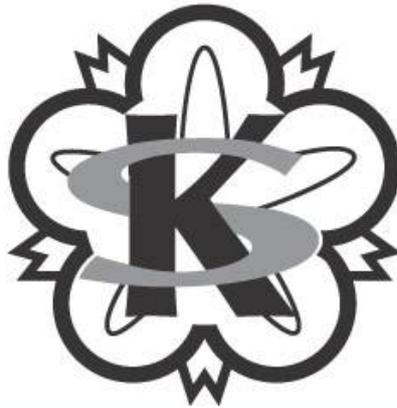
令和5年度 東京都立小石川中等教育学校

小石川フィロソフィーVガイダンス資料

第5学年 小石川フィロソフィーV

令和5年度 RL-Room 概要集

Research Learning Room



5年 組 番	氏名	
-----------	----	--

RL-Room 一覧

番号	担当	RL-Room 名	定員
1		メディアリテラシー	13名
2		民俗学入門 われわれはどこから来てどこへ行くのか	13名
3		Cool Japan 海外へ広がる日本文化	13名
4		歴史の見方・考え方	13名
5		数学研究	26名
6		空飛ぶ物理一座	7名
7		化学分野の研究	7名
8		となりの生物探究	7名
9		地学研究	7名
10		スポーツ・保健体育	13名
11		音楽表現	7名
12		美術に関する研究	7名
13		SDGs 国際研究	13名
14		国際コミュニケーション研究	13名

※定員は目安

自分用のメモ

第一希望

第二希望

第三希望

第四希望

第五希望

※ できるだけ希望に添えるように調整しますが、第五希望まで記入してください。

記入がなかったり、同じ番号ご記入されたりしている場合は、一任とみなします。

RL-Room 開始までの流れ

4月12日（水）3・4時間目 RL-Room 説明会

- 1) RL-Room 担当の先生による説明を聞く。
- 2) RL-Room 希望調査を提出する。

4月13日（木）

3) RL-Room 別の第一希望人数を掲示するので、希望を変更する場合は「変更届」を提出する。

※第一希望を優先して調整します。定員を超過した場合は、第二から第五希望の RL-Room の中で、定員を超過していない RL-Room に割り当て行います。定員を超過した RL-Room を希望している生徒は、予め希望を変更することができます。

※変更届は職員室奥側のドア付近にあります。変更締め切りは4月14日（金）17:00

4月19日（水）3・4時間目

- 4) 図書館の利用等に関するガイダンス

4月26日（水）

- 5) 各 RL-Room の学習スタート

番号	RL-Room	担当	人数
1	メディアリテラシー		13
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>大手メディアの情報とネットの情報。どのような「情報」であれ、そこには発信する側と受信する側のバイアスがかかっている。溢れる情報を、映像や音楽、動的コンテンツなどのマルチメディアは、どのように表現し我々に発信しているのだろう。メディアを通して発信される情報を、我々はどのように吟味し、評価していく必要があるのか、を考えていきたい。</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>①「話す・聞く」「読む」「書く」という行為のほかに、「みる (見・観・視)」ということ意識し、メディアを分析していく。「みること」に興味を持てる生徒、また、「話す・聞く」「読む」「書く」「みる (見・観・視)」という力を身につけたい生徒を求む。</p> <p>②フィロ3で実施した「メディアリテラシー」と内容が一部重複する。以前受講した者の再度の受講は拒まないが、了承しておくこと。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
筆記用具			
費用 (見込み)			
書籍購入費、交通費			

番号	RL-Room	担当	人数
2	民俗学入門 われわれはどこから来てどこへ行くのか		13
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>なぜ、正月には初詣に行くのだろうか。なぜ、節分には豆をまくのだろうか。なぜ、物語は「もの・がたり」なのだろうか。本講座は、生活や文学の中に見え隠れする日本人の精神性の背景にあるものを探りながら、日本文化の源流に迫っていく講座です。研究対象は、授業者と相談したうえで決定します。民間信仰や生活風俗など民俗学の研究領域から、文学作品に見え隠れする日本人特有の価値観まで、皆さんの興味関心のあるものについて、広く取り扱う予定です。</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>受講する生徒には以下の三点を求めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の様々な物事について、なぜそうなのかという疑問を持つ姿勢。 ・必要があれば現地に行き、見聞を広める行動力。 ・文献を根気強く読み解き、根拠をもって自らの意見を組み立てること。 			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
筆記用具			
費用 (見込み)			
フィールドワークを行う際の交通費			

番号	RL-Room	担当	人数
3	Cool Japan海外へ広がる日本文化		13
内 容 (目標, 進め方など)			
<ul style="list-style-type: none"> ・海外へ発信された日本文化、海外へ発信したい日本文化についての研究を通して、日本文化の特殊性・普遍性を探る。 ・最初にCOOL JAPANに関する基本的な情報を得る。講義・輪読(英語論文)を行う。 ・その後、各自が決めたテーマについて調査・発表し、論文をまとめる。 			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<ul style="list-style-type: none"> ・アニメやマンガ、カワイイなどのオタク系文化や、歌舞伎・和食などの伝統文化に興味がある人の参加を待つ。 ・海外からみた日本文化を理解するために、最初にCool Japanの代表例としてマンガ・アニメに関して講義を行い、その後英語論文の輪読(1つの長い文章や本を、少しずつ分担して読んで、他の人に紹介する)を行う。英語論文の英語は、特に難しくはないはずだが、簡単ではないことと、背景にある社会情勢などを知らないと分かりにくい部分もあるので、甘く見ないように。 ・その後は、自分で決めたテーマを調査していくので、文献を読んだり、資料を調べたりすることが好きでなければいけない。講座内で途中経過の報告・討論をするので、自分が調査している分野以外のことにも積極的に興味・関心を持って発言できなければいけない。 ・原則として毎回アクションペーパー(何をやったか・次回への課題)の提出を求める。その他、発表のレジュメ等の提出を求める。提出期限をきちんと守れないといけない。 			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
昨年度までのレポートに目を通しておくこと良い。			
費用 (見込み)			
特に無し			

番号	RL-Room	担当	人数
4	歴史の見方・考え方		13
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>歴史は一般的に暗記物と言われている。“歴史は変わらない”と捉え、それを覚え込むだけの存在だとされている。例えば、1600年に天下分け目の関ヶ原の戦いがあった。東軍を率いる家康、それに対する西軍は三成などと。ところが、重要なことは、この戦いがなぜ1600年に勃発する必然性があったのか？なぜ、その場所は「関」ヶ原であったのか？歴史的な流れの中から推移を捉え、地政学的に見てこの場の持つ力を考えねばならない。</p> <p>近年、歴史事象についての評価は大きく変化してきている。新たな発見や発掘、周辺諸科学の成果を応用した新しい学説の発表などに伴い、歴史は変わっているのです。</p> <p>この講座では、昔と見方や考え方が変わっている歴史的事象を取り上げたり、以前とは評価が異なっている人物を追究したり、はたまた、歴史総合でも取り上げているように、同じ事象に関して、日本と外国とで捉え方が違っている出来事について検討して、「歴史的な見方・考え方＝歴史的思考力」を培い、それを応用して、自分で設定したテーマについて探求して貰おう。</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<ul style="list-style-type: none"> ・事に当り、自分なりに考察して、根拠を以て主張しようとする能力・気概を求めます。 ・論の取り纏めに当たり、先行研究の剽窃や盗用、著作権の侵害などを行わない姿勢を求めます。 			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
<ul style="list-style-type: none"> ・筆記用具 ・探究したいようなテーマを考えておく 			
費用 (見込み)			
<ul style="list-style-type: none"> ・調査・探究に当り、必要な文献・資料などの購入・収集費用、学校外に調査に出かける場合の交通費などは各自負担となります。 			

番号	RL-Room	担当	人数
5	数学研究		26
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>数学の興味ある分野を深く学びたい人や、自分が興味をもっている数学以外の分野を数理的に解析したい、数学的に創作したい人を募集します。</p> <p>内容、研究方法は自由です！</p> <p>先生は教えるのではなく、各自の研究をサポートします。また、プレゼンのノウハウ（ポスター、アブストラクト、レポート、パワポなど）を個別に指導します。</p> <p>成果発表として、全員が夏休み明けの math コン、統計グラフコンクールに挑戦することを皮切りに、いろいろなコンクールや校外の発表会に参加していきます。12月の都内SSH校合同発表会とマスフォーラムも全員が参加、発表します。</p> <p>また、数理的に解明する手段として、MATLAB、SIMULINK の活用も行い、MathWorks 社や大学の先生のサポート、アドバイスも予定しています。もちろん、R やその他の言語を使っても構いませんし、自分自身と会話して研究を進めてもよいです。</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>自ら課題を設定し、研究方法を開拓し、壁にぶちあたった時にそのまま粘るか方向転換するか、それも人生におけるよい経験になるはずです。自分の研究を客観的に見ていただくために、必ず校外での発表を経験します。どこでいつ発表するかも自分で調べて設定します。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
筆記用具 タブレット			
費用 (見込み)			
他校の発表を聞きに行ったり、校外で発表したりする際の交通費は原則自己負担となります。			

番号	RL-Room	担当	人数
6	空飛ぶ物理一座		7
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>前半：物理チャレンジ (実験課題：単振り子) 物理チャレンジ終了後からテーマ決め 2 学期頃から研究を進めていく 希望者は物理学会での発表など</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>単純だと思っていること、当たり前だと思っていることもよく考えると興味深いものがあります。そういえばなぜだろう、という疑問を大切にしましょう。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
物理チャレンジのホームページを見て実験課題を確認しておく			
費用 (見込み)			
物理チャレンジに関わる費用は学校からの補助があります。			

番号	RL-Room	担当	人数
7	化学分野の研究		7
内 容 (目標, 進め方など)			
<p><目標> 各自の興味分野 (化学分野の内容) について探究し、発表を通じて深め、論文にまとめる。その過程を通じて、課題解決力、プレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を伸長する。</p> <p><進め方> ①化学分野の疑問や、調べたいことを探す。 → 化学に興味があり、疑問を思いつく生徒が、この講座の受講に適している。 ②テーマを設定する。 → 研究の道筋が立てられたものの中から、テーマを一つに絞る。 テーマの設定こそ、最も時間がかかり、もっとも重要な部分である。 ③研究活動を行う。 → 場合によっては放課後のオープンラボも活用して、研究を行う。 研究の進捗状況に気を配り、先の予定を考えながら進めることが必要である。 ④講座内中間発表会やフィロV発表会、シンガポール修学旅行、外部の発表会等で、成果を発表する。 → 原則として、受講者全員が何らかの発表を行う。 発表のための資料作りや、発表練習も必要である。 最終的な提出物 (予定) : A3 ミニポスター1枚 (英語)、発表原稿 (日本語)、論文 (日本語)</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<ul style="list-style-type: none"> ・化学分野の研究では、うまくいかないことでも継続的に試行錯誤を繰り返す忍耐力が必要です。大学等の研究にもつながる内容ですから、自身の将来を見据えた志をもって参加することを望みます。 ・化学の研究ですから、必ず実験を行います。 ・研究内容によっては、安価な物品を購入してもらう必要があります。費用負担があることを、保護者の方とともに了承してください。 			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の興味関心を見つめなおし、研究テーマを考えておく。化学分野の疑問や、調べてみたいことを3つ以上探しておく。(昨年度までの研究やインターネット等も参考になる) ・白衣と安全めがね、実験ノート (自分の研究内容を記録するノート) を用意する。 ・初回に、調べたいテーマに関する書籍/資料を持参すること。 			
費用 (見込み)			
各自の実験に必要な物品の購入代 (実験装置は、化学室にあるものは、基本無料で利用可)			

番号	RL-Room	担当	人数
8	となりの生物探究		7
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ありのままの生物の「日々の観察」や、生命倫理に配慮した実験等を通して、生物の理を探究する。 ・年度内 1 人 1 回、日本学生科学賞等への論文投稿や、学会等の校外でのポスター発表を行う。 ・夏休み明けにはデータ解析、統計処理、ポスターの作成をする。 ・10 月には日本語の論文作成、3 月にシンガポールでの英語による発表をする。 <p>【研究過程】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 課題の設定 気づきから、質疑と対話を繰り返して課題へとブラッシュアップする。同時に先行研究を調べながら、研究の先端を把握する。 2. 仮説の設定 仮説の裏付けに、研究論文や実験データなど、根拠資料を伴って設定する。 3. 検証計画の立案 検証計画の実践を伴いながら、条件出しや仮説及び計画の再検討を繰り返す。 結果の分析、及び統計処理を見通した検証計画へと仕上げる。 4. 結果と考察 再現性のある結果であること、及び考察を通して、次の仮説の設定を行う。 <p>2-4 を繰り返す 1 で設定した課題への解決に向けて探究し続ける。(エンドレス)</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 表現、伝達 探究を口頭発表、ポスター、論文にまとめる。(中身がないと書けません) ※ 随時、個々の進展に合わせてアドバイスする。 <p>【表現】</p> <p>いつでもどこでもプレゼン(15 分、5 分、1 分)、A3 ポスター(日本語/英語両方)、論文(日本語)</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>【要望・心構え】</p> <p>生物は、物理的環境や成長段階、遺伝的背景などで反応が多様に表れ、結果にバラつきが多い。そのため再現性を確認するには実験・観察・個体数を数多く行う必要があり、フィロVの時間外にも持続的観察と記録、実験とデータ処理に見舞われる。しかも佐野にとことん質問される。日々の観察、記録が楽しくてたまらない方、誰も気づかない自分だけが知る発見にニヤニヤしてしまう方、どうぞ。</p> <p>【選考方法】</p> <p>万が一抽選になった場合には、「現時点の仮の課題」「その課題に取り組みたい理由」で精査する。</p> <p>【注意点】</p> <p>ヒトを除く生物を対象とする。特に動物界の生物を扱う場合、ISEF の国際ルールとガイドライン(研究倫理と生命倫理)に基づき、実験計画を設定する。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
<p>取組みたい課題や疑問を 3 つ、およびそれぞれ「課題を取組みたい理由(目的)」「(根拠資料があるとなお良い)」について用意 (初回到口頭でプレゼン)。持ち物：筆記用具、他人の話聞く態度。</p>			
費用 (見込み)			
<p>試薬は要相談。それ以外市販で購入できるものは個人購入となる。実験後の生物室への置き土産は不要。</p>			

番号	RL-Room	担当	人数
9	地学研究		7
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>地学に関するテーマを設定し、データを集め、グラフ化して検討し、考察を行う。自然現象を捉えることは難しいが、地道に観測データを蓄積してまとめて欲しい。テーマによっては、フィールドに出向き、データをとらなくてはならないものもある。ちなみに、4回前の講座から相手を頼ってしまう人もいたので、共同研究は、認めていない。フィロIV時代を含む過去7年間の主なテーマは、</p>			
天体	<p>流星の電波観測 4 変光星 3 Hα線による太陽プロミネンスの観測 1 アイソン彗星 1 東京で天体観測をする方法 2 月食時の最微光星 1</p>		
湧水	<p>赤羽自然観察公園 7 和光市白子湧水群 2 小豆沢公園の湧水 2 里美公園羅漢の井 1 柳の井戸 1 飛鳥山の湧水 1 柴又帝釈天の御神水 1 香取神社の地下水 1 成城三丁目緑地の崖線湧水 1</p>		
気象	<p>酸性雨関係 7 雨滴の大きさと雲の厚さ 3 接地逆転層の観測 1 観天望気 1 視程 1 蜃気楼 1 雲の高さを求める 1 冬になるとなぜ黒板が消しくくなるのか 1</p>		
化石	<p>飯室層の化石 2 飯室層の有孔虫 1 佐野市葛生のフズリナ 1 秩父のチャートから放散虫 1</p>		
岩石・鉱物	<p>渋沢峠の黄鉄鉱 1 砂に発生する泡について 1</p>		
地震	<p>異常震域 1</p> <p>などである。引き継ぎを行い、継続研究ができるテーマもあるが、14期生が独自にテーマを設定し、取り組むことも期待している。</p>		
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>地道に観測データを蓄積することは、とても大変な作業になります。途中である程度まとめてみると、方法が適しておらず、一からやり直さなければならないこともあります。授業での2時間は、途中経過を報告し、アドバイスを受ける時間 (一人に与えられる時間は、15分程度) です。とってきたデータをまとめる時間です。<u>この時間以外に観測をして、データが集められない人は、この講座には向いていません。</u>この1年の研究は、苦しいかもしれませんが、将来、大学で卒論を書く上で、きっと役に立つことでしょう。アドバイスを受けながら、前向きに取り組める生徒に受講して欲しいです。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
<p>「テーマ8割」とよく言われます。これは、テーマが良ければ、その研究は8割成功したようなものだということです。昨年も、取り組みたいテーマで調べたり、訪ねて聞いてみたりした生徒はいましたが、結局行き詰まり、10月にテーマを変更することになりました。(その後の努力でよい研究になりましたが。)</p> <p>受講するかどうか迷う人は、地学室に過去の先輩の論文や資料も置いてありますので、気軽に質問をしに来てください。</p> <p>受講が決まった生徒は、何をどのように調べ、どうまとめていくか。いくつかのテーマの候補を準備してきてください。</p>			
費用 (見込み)			
<p>フィールドへの交通費など 自作する機器の作製費など</p>			

番号	RL-Room	担当	人数
10	スポーツ・保健体育		13
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>1 学期は自身の興味関心をもとにして競技力向上のための動作分析の実験・検証、食事・休養方法、競技特有のけがへの対処、スポーツ障害、リハビリテーション、予防法、各種競技にかかわるデータ記録を基に技術力向上における分析を行う。</p> <p>2 学期、3 学期は1 学期に取り組んだ内容を発展させ、研究を深め、発表できるように準備を進める。</p> <p>3 学期は論文作成が主となる。</p> <p>《補足》先輩が行った研究に興味がある生徒は研究を引き継ぐことも可能。(図書室の論文冊子参考)</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
運動部活動を通して競技力向上を目指す人、または運動は得意でないがあらゆる側面からスポーツを深く考え、文化的スポーツ、社会スポーツ等に関心がある人。			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
筆記用具、興味関心のある先行研究などの資料があれば持参する。			
費用 (見込み)			
なし			
番号	RL-Room	担当	人数
11	音楽表現		7名
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>・「表現豊かな音楽活動」を目指し、①②に関して研究活動を行う。</p> <p>① 全員で1つの楽曲を作り上げる音楽活動を通し、豊かな表現活動の向上に取り組む</p> <p>② 個人で音楽表現に関わる研究テーマを設定し研究に取り組む。</p> <p>・A3 ポスター、A4 研究要旨の作成 (フィロV全員)</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>・バンド活動 (大きな音が出る活動など) はできません。</p> <p>・音楽表現の講座なので、調べ学習 (専門書を読み進める) だけになることのないよう、演奏や実験などの活動にも取り組みます。</p> <p>・表現活動(発表含む)が多いので、苦手な人は得意になるようにしましょう。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
<p>・「どんな内容の表現活動をしようか」考えておきましょう。</p> <p>・筆記用具</p>			
費用 (見込み)			
個人の研究テーマに必要な楽譜などを購入します。持っていれば購入はありません。			

番号	RL-Room	担当	人数
1 2	美術に関する研究		7
内 容 (目標, 進め方など)			
<p>自分の興味・関心から「美術」に関わるテーマを設定し研究する。</p> <p>1 学 期：共通の「美術」に関わる講義や実習を受講する。</p> <p>1～2 学期：研究テーマを決定し、調査や実験、実験的な制作などを行う。</p> <p>3 学 期：ポスター・論文としてまとめる。</p>			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
<p>「美術」と「文化」、「美術」と「人間の心理」、「美術」と「歴史」など、美術作品そのものではなく、美術と人間の生活との関わりについて考察し、検証します。</p> <p>作品制作を主とする講座ではありませんので、「美術作品（絵画、彫刻、イラスト）の制作が好きだから」という理由で選択すると、研究が頓挫しやすいでしょう。</p> <p>また、作品そのものの調査を行うことはできません。例えば「作品に使用されている材料を調査するための光学的分析」などは機材の関係で難しいでしょう。統計的に意味のある大規模なアンケート調査も難しいでしょう。</p> <p>美術作品・作者そのものについての調査・研究は、単なる調べ学習になりやすく、テーマとして不向きです。</p> <p>例えば、「美術の力によって、社会の在り方、人の価値観、美意識などがどう変化するか、それに普遍性や地域性があるのか」や「美術文化から、異なる国や地域の間にある共通点や差異に、文化的な法則性を見出せるか」のように、美術と社会、人間の心理との関わりについて研究することが主になるでしょう。</p> <p>また、認知心理学の中で、美術に関わりのある知見、例えば色や形が人に与える影響や感じる印象について調べるというのも一つの手段でしょう。</p> <p>※ 作品制作を行う講座ではありません。ただし、仮説の検証やアンケート調査のために必要な素材を制作することは可能です。</p> <p>※ 学期に 1 度、講座内での中間発表会を設定します。プレゼンテーションソフト等を使い、視覚的な発表を行います。</p>			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
筆記用具			
費用 (見込み)			
未定 (共通で書籍等を購入してもらうことがあるかもしれませんが) 実験的に素材を制作するなどの場合は、道具や材料は自分で購入して用意する。			

番号	RL-Room	担当	人数
13	SDGs 国際研究		13
内 容 (目標, 進め方など)			
目標 持続可能な開発目標、Sustainable Development Goals (SDGs) に向けた取り組みが日本を含めて諸外国で行われています。SDGs は 2015 年 9 月の国連サミットで採択されたもので、2030 年までに達成を目指す 17 の世界的目標、169 の達成基準、232 の指標からなる持続可能な開発に向けた国際的な目標です。 この講座では、SDGs の概要について理解し、各国の取り組みを分析、比較することなどを通して、社会的な問題に対する認識を深め、解決策を考察します。また、各国の取り組みを比較したりすることにより、そこから見られる人々の価値観などを考察します。課題発見力、探求心、創造力、表現力を身に付けることを目標とします。			
進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs の概念、背景を理解します。要点や概要について話したり、講演を聴いたりする予定です。 ・日本の SDGs に対する取り組みについて調べ、発表し、話し合い、理解を深めます。 ・諸外国の SDGs に対する取り組みについて調べ、発表し、話し合い、理解を深めます。 ・各国の SDGs の取り組みから、その国の背景や価値観について調べ、発表し、話し合い、理解を深めます。 ・テーマを決め、研究を進め、発表していきます。 			
希望生徒へ (生徒への注意点・要望・心構え, 選考方法など)			
各国の SDGs の取り組みを通して、その国の実情、情勢、歴史的背景、価値観を知ることに関心がある生徒、国際比較、国際的な取り組みに関心がある生徒を募集します。英語の文献を読んだり、英語でディスカッションをしたりすることもあります。			
初回までに準備しておくこと (課題や持ち物など)			
今までで授業などで SDGs について学んだことや知っていることについて、まとめておいてください。メモ程度でかまいません。筆記用具を持参してください。			
費用 (見込み)			
未定 (書籍等を購入してもらう可能性があるかもしれません。)			

番号	RL-Room	担当	人数
14	国際コミュニケーション研究		13
内 容 (目標, 進め方など)			
目 標 <ul style="list-style-type: none"> ・第二言語習得理論を含めたことばを獲得する原理や基本概念を学ぶ。 ・ことばと文化の関係や、異文化コミュニケーションの基礎的な理論を学ぶ。 ・非言語要素を含めた国際交流やグローバルコミュニケーションに求められるスキルについて考える。 ・上記3点を踏まえ国際コミュニケーションに関するテーマを設定し、研究する。 			
進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・1学期は毎回国際コミュニケーションに関するテーマを設定し、ディスカッション（英語・日本語どちらを使用するかはトピックによって変わります）を通して相互理解を深める。 ・2学期は1学期の学習成果の中から自身の興味関心に関する研究課題を設定し、先行研究を踏まえて分析、調査等の研究を進める。学期中盤に中間発表会を行う。 ・3学期は、研究の成果と課題をまとめ、小グループによる相互発表会を経て、最終研究発表を行う。 			
希望生徒へ（生徒への注意点・要望・心構え、選考方法など）			
コミュニケーションスキル（英語・日本語問わず）を高めたい生徒、将来的にグローバルな視点を持ち世界で活躍したいと考えている生徒を希望します。また、年間をとおして主体的な態度で授業に臨み、自ら課題意識をもって毎回のディスカッションに参加することが条件となります。			
初回までに準備しておくこと（課題や持ち物など）			
<ul style="list-style-type: none"> ・これまで生活してきた中で感じたコミュニケーションに関する疑問や課題などについて、箇条書きでまとめておいてください（日本語・英語を問わず）。 ・筆記用具、タブレット、ファイル（A4用紙が挟めるもの）を持参してください。 			
費用（見込み）			
未定（書籍等の購入が必要になる場合があります。）			